



本誌記者が実体験！ 海外提携ゴルフ場視察旅行 in タイ

タイのゴルフツーリズムを体感し“提携”に発展

本誌8〜9頁で、今回の視察旅行の概要について掲載したが、ここではタイのゴルフツーリズムや参加者からの報告をメインに取り上げていく。まず最初にインバウンド観光におけるゴルフツーリズムが確立している、ゴルフ王国タイの紹介を簡単にしたい。

滞在型ゴルフ場でゴルフ三昧 ゴルフを存分に楽しめる環境が

ゴルフ王国タイには、現在18ホール以上のゴルフ場が約170カ所、ショートコースを合わせると約250ものゴルフコースがあり、2000年以降続々と新しいゴルフ場がオープンしている。

宿泊施設を備えたコースが多く存在しているほか、ゴルフ場の近隣にはリゾートホテルが開業しているエリアも多く、ゴルフのスキルアップやゴルフ三昧の滞在を目的としたゴルファーには適した国と言えるだろう。

朝や昼はゴルフ場でゴルファー1人にキャディー1人が付いてのゴルフを満喫し、夜は食事やショッピングへと街へ出かけたり、施設内のスパやエステ、マッサージで癒されたりと、ゴルフだけでなく

トータルで充実した滞在時間を過ごせることが、「ゴルフパラダイス」と言われる所以だろう。

また、ゴルフ場に併設しているホテルを利用すれば、送迎費用を抑えることができ、滞在日数やラウンド数を増やすことも可能だ。そのような背景から、近年、明治大学や立教大学等のように、大学のゴルフ部の合宿として利用するケースも増えているという。

さて、今回の視察旅行は提携候補のゴルフ場でプレーを行い、タイのゴルフツーリズムを学び、ゴルフ場の国際化ブランド力を高めるため、タイのゴルフ場との提携を視野に入れた交流が目的であった。視察旅行に参加したメンバーの中で、3人のゴルフ場経営者及びグリーンキーパー、運営側としてガイド役を務めたコーディネーターから、今後の展望やタイゴルフ場協会（TGCA）とのミーティングなど、視察旅行の話聞くことができたので、1人ずつ順に紹介していきたい。

まずは、男鹿ゴルフクラブ（秋田、18H）の國安玲佳代表取締役社長に登場いただく。

近隣の温泉郷施設と提携
地域観光の起爆剤に

「昨年の10月末に開催された、AIEEさん主催のセミナーに参加しました。『戦略的な外国人ゴルファー集客と受入について』と題されたセミナーでしたが、正直なところインバウンドに関しては、当方のゴルフ場も地域の環境もまだまだこれからといったところでしたので、どういった方々、企業さんがこの課題に積極的に取り組まれているのかというリサーチの意味もありました。セミナーでは国内外、特にアジア地域全体のゴルフ事情を勉強させていただいたのは大きな収穫でした。その中で、今回の企画があることを教えていただき、もう一歩踏み込んで現地視察をすることにいたしました。

これまでにもタイを訪れたことはありませんでしたが、ゴルフツアー以外の観光客に対しても温かい歓迎ムードが随所でみられます。日本人がタイに行っても言葉の壁を感じずゴルフや観光を楽しめるのは、ハード面・ソフト面ともに受け入れ体制が整えられているからだと思います。日本から見ても、インバ

男鹿GCの國安社長



ウンドよりアウトバウンドとなっているのは現状を見て歴然だなど感じました。タイのインフラ整備が今後進んでいくことを考えれば、日本からの渡航客は益々増えると思います。ゴルフ場も然りで、そういった中で日本に興味をもってくださっているゴルフ場さんと提携し、相互利用や双方のメンバー同士の交流を深めていければと考えています。

当方のゴルフ場は国定公園内に所在し、男鹿半島もまた歴史ある観光地です。すでに近隣の温泉郷施設との提携をし、県内外のゴルファー客は年々増えてきています。またレストランにおいては、地域の方に気軽に利用していただけるよう一般利用も推進しています。

昨年はタイからの観光で、お食事のみゴルフ場で利用された団体もありました。少しずつではありませんが、今後も地域観光の起爆剤になれるよう努めていきたいと思えます」

会員へのサービス向上のため、
業務提携を目指していく

次は標高1100mの風光明媚な高原に位置する長野県佐久市のリゾートゴルフ場、サニーカントリークラブ（27H）の小林祐治代表取締役に登場いただく。

「今までタイにゴルフ旅行で来たことがある他、私は明治大学のゴルフ部助監督を務めており、毎年3月に合宿でゴルフ部の学生らと一緒に訪れています。私が今回のタイ視察旅行に参加した理由ですが、タイのゴルフ場の素晴らしさや気候の良さから、業務提携ができるコースがあればと思いい視察旅行に参加しました。また、当ゴルフ場は長野県佐久市にあり、冬場は冬期休業するため、提携をして会員様へのサービスにつながると思いました。今回プレーしたゴルフ場の受け入れ体制についてですが、タイのゴルフ場は全世界から

の受け入れ体制が整っていると思えました。言葉やスロープレーでできるなど世界基準でした。

次にタイゴルフ場協会とのミーティングに参加した感想ですが、日本のゴルフ場の事を全く知らないと言われてショックでしたね…。日本側からは送客できても、タイから誘客するのはかなり大変かなと思いました。また、タイのゴルフ場と日本の業務提携をする場合、タイからのゴルファーが来てくれるか、来ていただいても言葉の問題（日本側に英語やタイ語のわかる人が少ない）がやはり一番の問題かもしれません。しかし、日本にはかなりのタイ人が訪日しているので、1日目はスキー、2日目ゴルフなどのゴルフ以外で、周辺

サニーCCの小林社長



の観光施設と協力していくことがポイントだと思いました。

なお、タイでのゴルフが楽しい、何がゴルフパラダイスと呼ばれるのかという点についてですが、皆さんご存知だと思いますが、タイのゴルフは、プレーヤー1人にキヤディが1人付いてくれます。そして1年中暖かい。ゴルフ後のマッサージが良い。プレー代が安く、食事が美味しい。これらに尽きると思います。

サニーCCとしての展望ですが、当クラブのこれまでのインバウンド実績はほぼゼロです。タイのゴルフ場何コースかと業務提携をして、まずは当クラブのメンバーさんの送客をしながらタイ人プレーヤーに対し、日本へゴルフを連れて来ていただくツアーを組みたいと思っています。そして、今回一緒に視察旅行に参加したゴルフ場とも、国内のアライアンスを組んで海外のゴルフ場のアライアンスも一緒にできればと思いました。前向きに提携を考えていますので、もう一歩進んで話をしたいと思っています。本気でタイのゴルフ場提携を進めたいです」

台湾、中国の実績を引く提げ 次はゴルフ王国タイに挑戦

温泉で有名な静岡県伊東市にあるリゾート施設『サザンクロスリゾート』の北村太一代表取締役社長にも話を聞くことができた。同リゾート内には、サザンクロスC（静岡、18H）の他、宿泊施設やプール、ドッグランもある本格リゾートゴルフ場だ。なお、北村社長は現在、伊東市の『インバウンド推進協議会』の会長も務めている。

同リゾートでは、17、18年前からインバウンドに注力しており、台湾人、中国人をはじめとするアジアからのインバウンドゴルフファターの集客に成功している。日本国

サザンクロスリゾートの北村社長



「滞在型観光地をPR」
サザンクロス タイのゴルフ場視察へ
北村社長 伊東市視察団のサザンクロスリゾート代表取締役社長北村太一氏が、タイのゴルフ場視察に訪日した。伊東市視察団一行は、タイのゴルフ場視察に訪日した。伊東市視察団一行は、タイのゴルフ場視察に訪日した。伊東市視察団一行は、タイのゴルフ場視察に訪日した。



タイのゴルフ場代表と伊東市視察団の北村社長らと懇話会
タイのゴルフ場代表と伊東市視察団の北村社長らと懇話会

研修旅行の開催前と後に記事が掲載された (伊豆新聞)

内でもトップクラスの実績と、受け入れ体制等のノウハウを持つているが、次のターゲットとして、親日家も多く、近年日本への訪日客数が約100万人となり、まだまだ伸びしろがあるタイに着目していたことが、今回参加のきっかけだったという。少子高齢化で日本国内のゴルフ人口、観光客が減少しているが、タイゴルフ場協会

に始まる予定でこれに対し、伊東市は全面的にバックアップしていきたいという。

グリーンキーパーでは唯一の参加 バミューダ芝の状態に注目

次は、グリーンキーパーとして唯一参加した、宇部72カントリークラブ（山口、72H）の伊藤隆弘 統括グリーンキーパー。なお、宇

とのミーティングを通し、タイの今後の大きな可能性を肌で感じたという、この視察旅行を機にこれからの訪問を重ねながら市場調査、メンバー相互交流等を積極的に進め、空港からも近く、温泉やレジャー施設もある「観光地伊東」を売り込んでいきたいとしている。

ちなみに、伊東市とタイの観光地プーケットを舞台にした映画の撮影も今春から本格的

宇部72CCの伊藤統括キーパー



部72CCは系列の宿泊施設がゴルフ場と隣接している。

「仕事柄、プレーに集中しようにもどうしてもコースの状態が気になります。ラウンドした3コースの気づきを報告させていただきませう。1年中気温の高い熱帯のタイではゴルフコース内はほとんどがバミューダ芝です。今回は初日(21日)のパタナ・GC&リゾーと3日目(23日)のタイCCCのバミューダグリーンの状態が特に気になっていました。採用されているのはティファイグールで、この品種は宇部72CC万年池西コースのサブグリーンに今年度採用が決定しています。ゴルフ大国アメリカでも南部フロリダ州でたくさんこのコースが採用しています。当日

の状態は所々に軸刈が見受けられました。芽数も十分でほとんど病害もなく転がりは9フィート弱と可もなく不可もない状態でした。少し手を加えればもっと良い状態になると思われました。タイCCCではフロントナイン半ばからバックナイン半ばまで、2月のタイではめつたに降らない大雨に見舞われましたが、スルーザグリーンとバンカー内にはほとんど水が溜まらないのには驚きました。雨季に備え



タイCCCの12番Hの裏には、ティファイグールの巨大なナーセリーと工場があった

の排水設備が行き届いているのだと思います。2日目のクルンカビーGCのグリーンはティフドワーフでしたが、やはりこの品種は古いのでマット化が酷く芝芽もかなりきつい状態でした。またメンテナンスの方針として化成肥料や農薬は極力使わない方向で管理しているそうなので、グリーンの芽数は少なく、グリーンを含めてコース内に雑草が目立つ状態でした。3コース共、日本人や韓国人のプレーヤーが半数以上を占めるためか、隅々まで丁寧に対処してあります。クルンカビーGCではミヤンマー人の方々がバンカー整備の作業に当たられていましたが、これから日本でもコース管理作業を外国の方々の方に頼らざるを得ない時が来ると思われれます。これからのグリーンキーパーには異文化に対する理解と言語能力が必要になってくるでしょう。初めてのタイ視察旅行は大変有意義な時間でした。今回の研修の主催者、同行者の方々に感謝申し上げます」

**運営側が感じた今回の視察旅行
日本の今後の展望について**

最後に登場するのは、今回の視

察旅行を協賛し、現地でコーディネーターを務めたAIEの日高充副代表。同社では、外国人ゴルフアーの集客を目的としたインバウンド対策や語学対応、ゴルフ場提携を業務としているが、運営側として視察旅行の総括コメントをいただいた。

「昨年ベトナムに出張した際、ゴルフ場のクラブハウスの入り口に、海外提携先のゴルフ場のプレートが張り出されていました。7カ国、22のゴルフ場と提携しているというものです。このようにゴルフ場の国際化ブランド力を高めるために、日本のゴルフ場経営者の方にも、海外のゴルフ場と提携するために、まずは常夏「タイ」にある今回コーディネーターを務めた、AIEの日高副代表



提携交渉可能なゴルフ場で、実際に視察プレーをしてみたらう体験型の視察旅行を企画しました。

今回の視察旅行では、あえて三つの異なった種類のゴルフ場を視察しました。最初のゴルフ場は宿泊施設を併設しているリゾート型のゴルフ場、2カ所目は、バンコクから近郊の比較的リーズナブルなゴルフ場、最後は誰もが一度はプレーしてみたい高級接待ゴルフ場です。三つのゴルフ場とも、私たちのような外国人がプレーすることに關しては当たり前の通常業務として捉えています。ゴルフ場のスタッフ、キャディ、レストランなどもゴルフアークとコミュニケーションできる最低限の英語は習得しています。またレストランメニュー、ゴルフ場内のコース表記については英語のみで対応しています。また日本人プレーヤーが比較的多いゴルフ場であっても、特に日本語で表記されてはおりません。これは今後これから外国人ゴルフアーク対策をされる日本のゴルフ場も参考になるのではないかと思います。

そして今回の視察旅行の目玉企画でもある、タイゴルフ場協会と

のミーティングに關してですが、私は、タイ国際航空で勤務していた経験もあることから、タイ国政府観光庁（TAT）大阪事務所の多大なご協力、尽力をいただきこのミーティングを開催することができました。ミーティング当日もバンコクのTAT本庁から2名が駆けつけていただき、会議運営をサポートしていただきました。

タイゴルフ場協会と日本のゴルフ場経営者の方とのミーティングは、今後の日泰相互の発展にとつて非常に意味のある布石になったのではないかと感じています。タイゴルフ場協会としては個々のゴルフ場との関係性ではなく、日本の経営者と繋がるような関係性を今後は前向きに模索していきたいとのことでした。日本ゴルフ場経営者協会（NGK）等に積極的に働きかけを行い、日本とタイのゴルフ場経営者との国際親善交流の架け橋になりたいと思っています。

また、今後の日本のゴルフツーリズムに關してですが、インバウンドゴルフアークに来ていただきたいと思っているゴルフ場経営者の方には、積極的に海外でのゴルフを体験してもらって様々な課題を

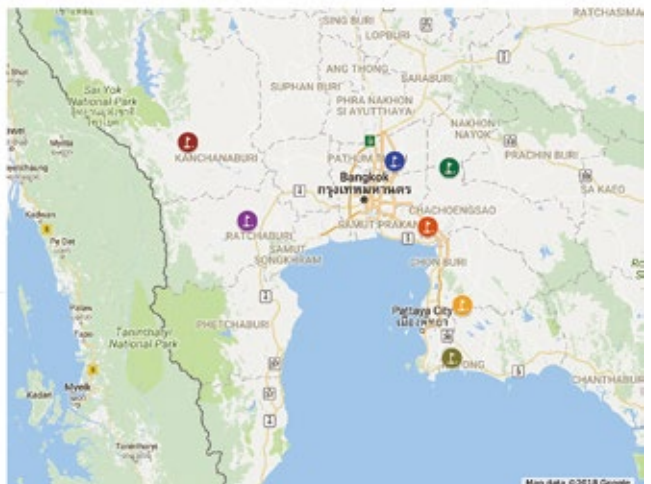
実感してほしいと思っております。つまりアウトバウンド無しには、外国人ゴルフアーク集客、つまりインバウンド集客は考えられないのではないのでしょうか？ その端緒として、個々のゴルフ場、および地域一体での連携を進めていくことが非常に重要ではないかと感じています。今回参加

したゴルフ場経営者の中には、周年節目の年にあたるので視察したゴルフ場と提携を進めたいというお話もいただいております。サザンクロス

スリゾートの北村社長が会長を務める伊東市インバウンド推進協議会（静岡）は、地域と地域の連携を進めたいとタイの海沿いのリゾート地のホアヒンとの提携を、タイ国政府観光庁を通じて模索して

提携候補ゴルフ場 in タイ 2018

- 無題のレイヤ
- 1 タイ・カントリークラブ
 - 2 ローラスパレールゴルフリゾート
 - 3 エメラルドゴルフクラブ
 - 4 ニチゴゴルフリゾート
 - 5 ロイヤル・ラチャブリー・ゴルフクラブ
 - 6 パタナゴルフ&スポーツリゾート
 - 7 クランカビーゴルフコース



海外提携候補のゴルフ場

います。

最後になりますが、タイゴルフの醍醐味はなんとといっても、1人のプレーヤーに1人のキャディが付く、王様ゴルフであるという点だと思います。今回参加した経営

者の中には2人のキャディを付けることによって、最初のティショットからホールアウトまで一度もボールを触らずにプレーをされた方もおりました。例えば大事な取引先の接待に『一度もボールを触らせないゴルフを体験していただきます』とタイにお連れするのも、日本では味わうことのできない接待方法ではないでしょうか？弊社としては、日本のゴルフ場の経営者の方に、海外のゴルフ場を実際に視察プレーしてもらおうこのような研修旅行を毎年定期的に企画催行したいと思っております。今回はタイでしたが、今後は具体的な相互交流関係に発展し得るアジア諸国中心にその対象に広めていけたらと思っております」

業務提携をする場合の相互に考えられる有益性は

ここで海外ゴルフ場と提携した際に考えられるメリットについて記したい。日本とタイの相互のゴルフ場にとって、①提携ゴルフ場から外国人ゴルフファアの集客が可能、②提携ゴルフ場へ会員様向け親睦旅行企画、③提携ゴルフ場の従業員交換研修制度、交流周年

記念行事等といったことが主に挙げられるだろう。また、相互のメンバーにとっては、①提携ゴルフ場との交流コンペ、親睦旅行参加、②付加価値・満足度向上により会員権価格や会員数の維持、③提携ゴルフ場での優待プレーフィ適用等が予想される。

海外との提携話ではないが、今回、この視察旅行に参加したゴルフ場経営者同士でも、ツアー後に交流が進み、相互のゴルフ場を視察して、具体的に国内での友好提携を進めているケースが出てきている。海外の提携だけではなく、国内の提携というプラスの副産物を生むという、良い結果となった。

タイゴルフ場と業務提携の前にぜひ一度、タイでのプレーを

最後になるが、日本の人口減少と高齢社会に直面し、ゴルフ人口の減少により、大きな打撃を受けると予測されるゴルフ業界にとって、インバウンドゴルフファア集客は大きなポイントとなると思われる。この課題を推進するためには、ゴルフ場だけでなく、ゴルフ団体など、業界が一体となって動き、インバウンドの話ができる土台作

りが必要だろう。今回の視察旅行で改めて感じたのは、やはりゴルフツーリズムはゴルフだけでは成功はしないということだ。ゴルフ場と地方自治体や、周辺施設等の観光資源との協力が不可欠だろう。日本においても今後、海外ゴルフ場との提携やゴルフツーリズムが広く浸透していくことで、厳しい経営を強いられている日本のゴルフ場の立て直しが図れるきっかけタイゴルフ場協会とのミーティング風景。相互に質問を行うなど非常に充実していた



の一つになる可能性がある。さらに日本各地の自治体にとっても海外ゴルフ場と提携し、ゴルフツーリズムを推進することは魅力的な観光地づくりの手掛かりとなり、観光産業の振興と合わせて地元の雇用機会の増大により、地域おこしに寄与することが期待される。ゴルフツーリズムが地域創生の新たな起爆剤になる可能性があるうえ、タイのゴルフツーリズムから吸収できる要素も少なくないはずだ。ツアー等を利用、あるいは自ら企画し、日本のゴルフ場関係者もぜひ一度「ゴルフ王国タイ」を訪れてみてはいかがだろうか？弊誌としても今回のような視察旅行を今後も継続していきたいと考えている。

なお、今回の視察旅行ではいくつか動画での撮影も行った。4月上旬に弊誌のFacebookページに投稿したので、本誌と併せてご覧になっていただけると、ゴルフ王国タイの雰囲気やタイのゴルフツーリズムをより感じとっていただけではないか、と思っっている(誌面の都合で、タイゴルフ場協会とのミーティングの詳細は次号になります)。

【取材協力】

タイ国政府観光庁
タイ国政府観光庁HP: <https://www.thailandtravel.or.jp/>